

## 荒れた海での稚魚の動き

### ■イシガレイの稚魚の波に対する対応

今回の調査は、先月以上に風が強く海も荒れ模様であった。前回の調査で採集した場所 (Fig.1▲)は河口から波の影響を直接受ける位置にある。前回よりも波が高く、▲では1匹も採集できなかった。今回採集できたのは■と●の位置、及び津波による漂着物の下だけである。どの位置も波の影響を受けにくい環境であった。特に●はこれまで稚魚を採集したことがない場所である。波の影響を避けて稚魚が奥まで移動した可能性が考えられる。

採集できた稚魚の大きさと数はTable.1のとおりである。なお稚魚の体表の色素は内臓のある部分から発達するように思われる (Fig.2)。



(Fig.1 採集した場所)

稚魚の全長	2.0cm	2.5cm	3.0cm
採集数(河口)	4	3	4
採集数(潟湖内)	0	0	2

(Table.1 採集した稚魚の全長と数)



(Fig.2 イシガレイの稚魚 河口域で採集)

### ■他の生物

今回の調査では河口でウナギの稚魚を採集した (Fig.3)。10cmに満たない大きさで、体表には色素ができてはじめていた (Fig.4)。

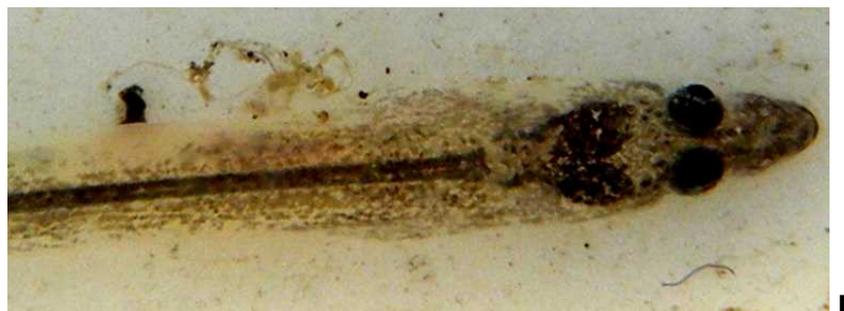
アサリの稚貝は河口域、潟湖内ともに採集された。河口域では5mm程度、潟湖内では1cm程度の大きさであった (Fig.5)。



(Fig.3 ウナギの稚魚)



(Fig.5 潟湖内のアサリ)



(Fig.4 体表の色素)